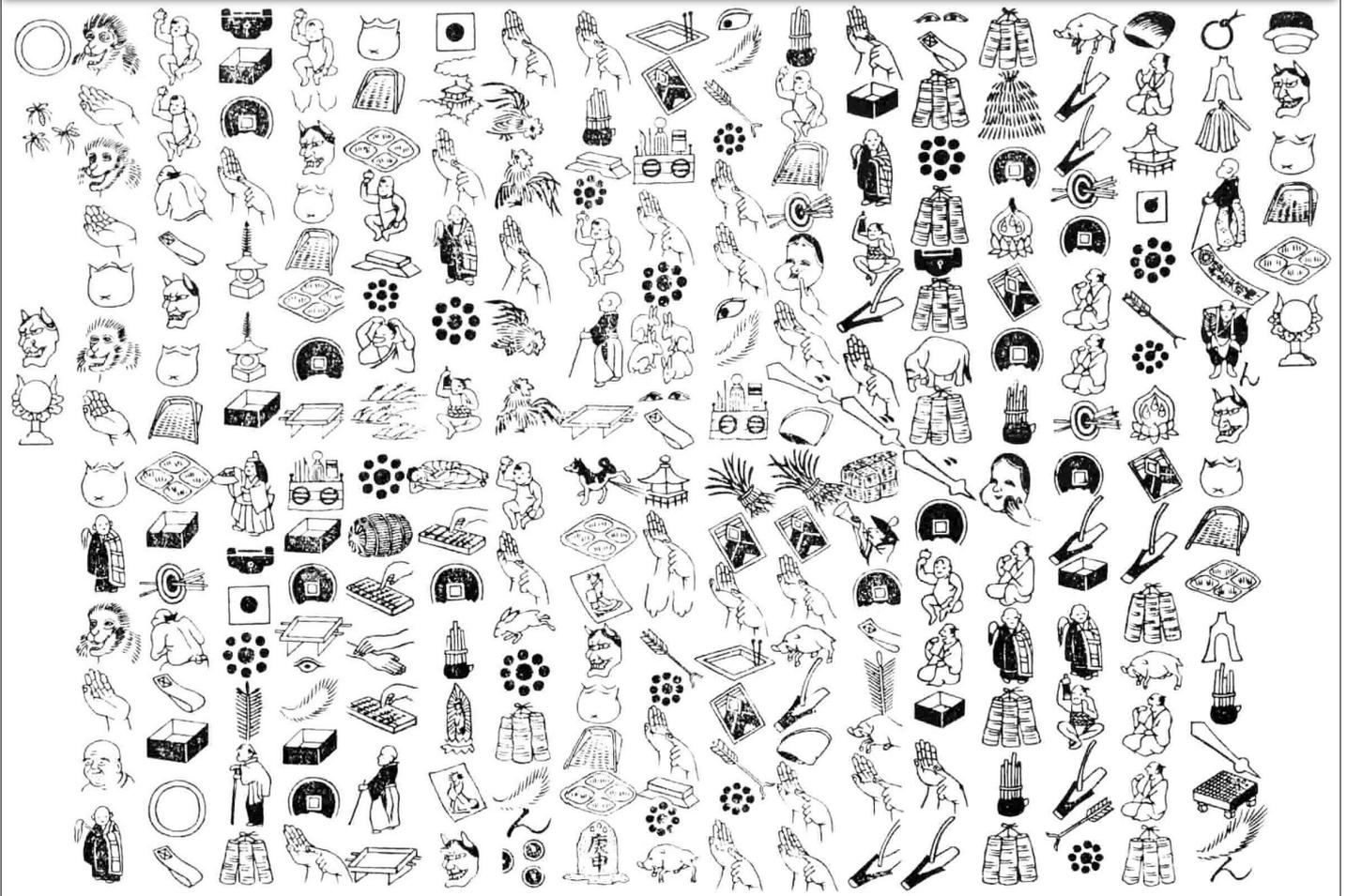
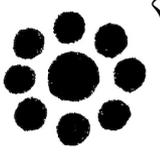
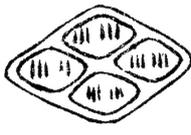
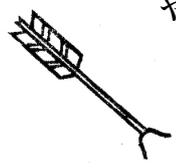
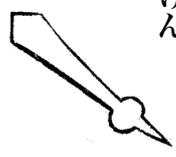
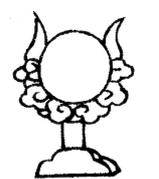
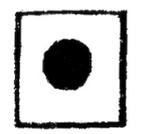
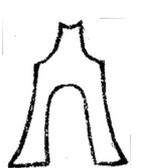


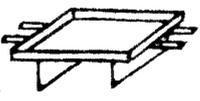
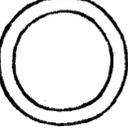
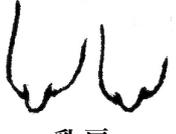
般若絵心経

画像提供：岩手県立博物館



般若絵心経 絵文字・判じ絵の解説

 <p>く 九曜紋の「く」</p>	 <p>かい 貝</p>	 <p>しょう 雅楽の「笙(しょう)」</p>	 <p>ぎょう 采配(さいはい)。戦での指揮道具。さ</p>	 <p>た 田</p>	 <p>まか 「釜(かま)」の逆さ</p>
 <p>や 弓矢の「矢(や)」</p>	 <p>くう 食う・食べる様</p>	 <p>けん 剣</p>	 <p>ぼ・ぼう 目の不自由な按摩さん。盲(ぼう)。</p>	 <p>しんぎょう 神鏡</p>	 <p>はんにや 般若面</p>
 <p>しゃり 舍利塔 (釈迦の骨を安置)</p>	 <p>ど お堂</p>	 <p>ご 囲碁</p>	 <p>さつ 神社のお札</p>	 <p>かん 鑲・金属製の輪</p>	 <p>はら 腹</p>
 <p>し 黒札と呼ばれる 絵札の「四」の札</p>	 <p>いっごころ さいころの一の目</p>	 <p>おん・うん 動物の「尾」と「ん」</p>	 <p>ぎょうじ・ん 相撲の行司</p>	 <p>じ 琴柱(ことじ)</p>	 <p>み 箕</p>

 お爺さんと杖	 ねはん 釈迦の涅槃の姿	 だい 台	 び 「ビー」とラッパを吹く朝鮮通信使	 ほう 頬(ほほ・ほう)	 しき 「鋤(すき)」の詠りで「しき」
 せ 背中	 さん 「算(さん)」 算盤で勘定をする	 さー・さつ 犬が小便をする音	 しん 松の芯・木の芯	 め 目	 ふ 食べ物の「麩(ふ)」
 わ 輪	 ぶつ 仏像	 え 絵	 ない 「苗(なえ)」の詠り	 つ 「乳(ち)」の詠り。 「乳(ち)」は、旗、幕、 羽織などの、紐などを 通す小さい輪。	 い 猪・亥
 ぎや 猿の鳴き声・叫び声	 あ 「あぁ」と大あくび	 こーしん 庚申塚 (こうしんづか)	 め・みよう 下の「尾」と組み 合わせて「みよ	 じょう 錠前	 そく 矢の束
 て 手	 の 野原	 けいげ 闘鶏での蹴り合いの様	 じん 戦陣	 ぞう 象	 ぜ 「錢(ぜに)」の上半分
 ぼし 「坊主(ぼうず)」の 方言	 たら 「俵(たわら)」の方言		 ろう 炉・囲炉裏	 げん 剣(けん)に濁点	 じゅ 重箱(じゅうばこ)
 か 蚊	 みやく 脈をとる様	 う 兎(うさぎ)	 しゅう 兎(う)が四足で四兎	 こ 子ども	 そう 僧侶
<p>この「般若絵心経」は、天保年間(1830年代)に岩手県で創案された「盛岡系舞田屋版」とされるもの。 当時は義務教育などはなく文字の読めない人もいたため、誰でも般若心経に触れられるようにして民衆の心の安寧を図る目的のほか、明るくユーモラスな庶民の読み物としても流布したと考えられる。 写実的な絵文字は、この時代に流行した「判じ絵」の趣も感じられる。</p>	 とう 塔	 り 「利息」の「り」 百文の利息が二文半	 ち 乳房	 む 指で「六」を表す	 ぎょう 行者・修行
 のう 能の舞	 てんどう 天に浮かぶ堂	 と 砥石	 に 荷物	 によ 刈った稲を円錐形に積み上げた「にお」	